

12. 齒髓保護処置

間接覆髓法

歯髄保護処置

間接覆髄法

直接覆髄法

学習目標 ▶▶

間接覆髄とは ▶▶

直接覆髄とは ▶▶

基本術式・器具準備 ▶▶

基本術式・器具準備 ▶▶

う窩の開拡 ▶▶

う窩の開拡 ▶▶

防湿 ▶▶

防湿 ▶▶

感染象牙質除去 ▶▶

感染象牙質除去 ▶▶

覆髄剤貼付 ▶▶

覆髄剤貼付 ▶▶

仮封 ▶▶

仮封 ▶▶

覆髄後の処置 ▶▶

覆髄後の処置 ▶▶

【学習目標】

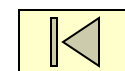
歯髄保護処置における覆髄法を習得する。

- ・歯髄保護の適応症を学ぶ。
- ・間接・直接覆髄法の術式を習得する。
- ・覆髄後の治癒機転を理解する。

【想定】

間接覆髄：#45(5)咬合面う蝕C2

直接覆髄：#34(4)咬合面う蝕C2



最初へ

間接覆髓法

【術者位】

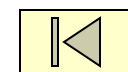
12時

【模型位】

上顎歯列面 90° 、開口度3横指半、左右角 0°

【フィンガーレスト】

間接覆髓：#44($\overline{4}$) 頰側咬頭

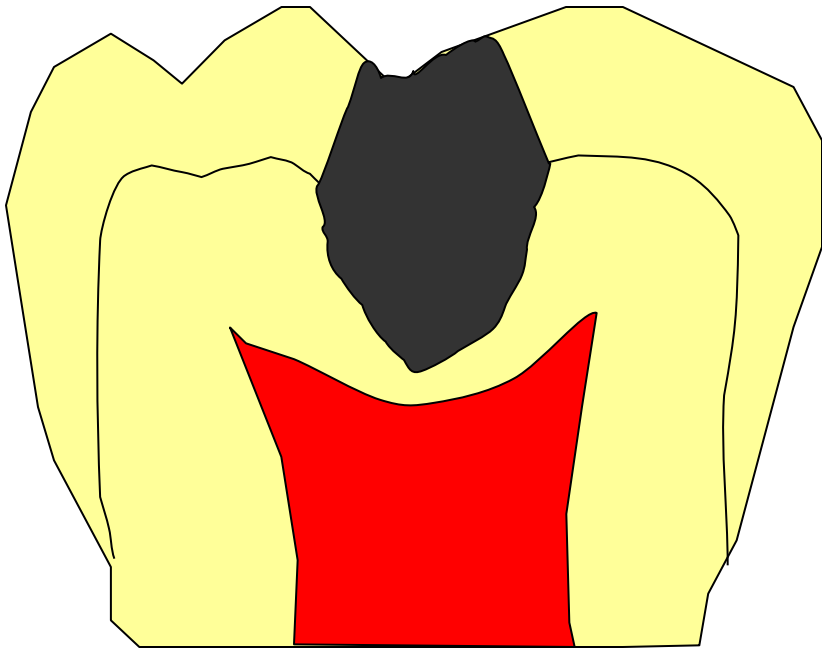


最初へ

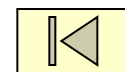
間接覆髓法とは

軟化象牙質の除去をおこなったところ健全な象牙質一層を残している。

歯髄を保護し、また再石灰化を期待して、さらに二次象牙質の形成を促進することを目的として間接覆髓剤(水酸化カルシウム製剤 実習ではDycal)を貼付し、さらにガラスイオノマーセメント等で仮封し、経過を観察する処置



齧蝕が象牙質内に進行し、
歯髄に非常に近接した状態

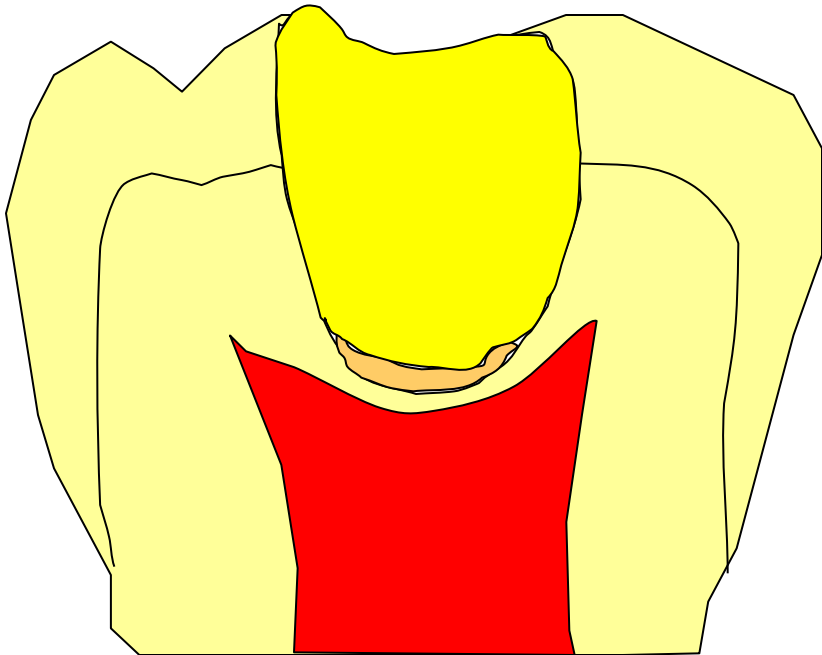


最初へ

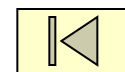
間接覆髄法とは

軟化象牙質の除去をおこなったところ健全な象牙質一層を残している。

歯髄を保護し、また再石灰化を期待して、さらに二次象牙質の形成を促進することを目的として間接覆髄剤(水酸化カルシウム製剤 実習ではDycal)を貼付し、さらにグラスアイオノマーセメント等で仮封し、経過を観察する処置



齧蝕が象牙質内に進行し、
歯髄に非常に近接した状態



最初へ

基本術式・器具準備

エアービン
ダイヤモンドポイント

齶窩の開拡

クランプ
フォーセップス
ヤングのフレーム
フロス

ラバーダム防湿
消毒

窩洞消毒剤

マイクロモーター
ラウンドバー
スプーンエクスカベーター
う蝕検知液

感染象牙質の除去

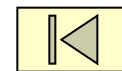
グラスアイオノマーセメント

窩洞をセメント
で仮封

紙練板
セメントスパチュラ
練成充填器(平型)
アルコール綿球
エクスカベーター

歯髄近接部に
覆髄剤(Dycal)
を充填器にて貼付

紙練板
ダイカル充填器



最初へ

齧窩の開拡

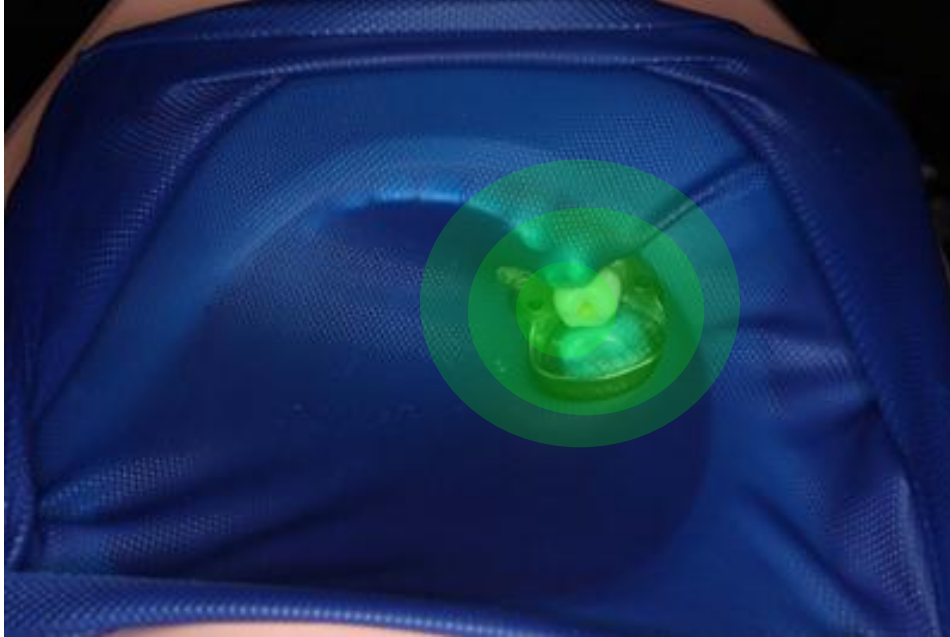


ダイヤモンドポイントTF-31

スチールラウンドバー
が象牙質う蝕に到達
できるようにエナメル
質を開拡する。

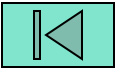
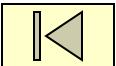


ラバーダム防湿



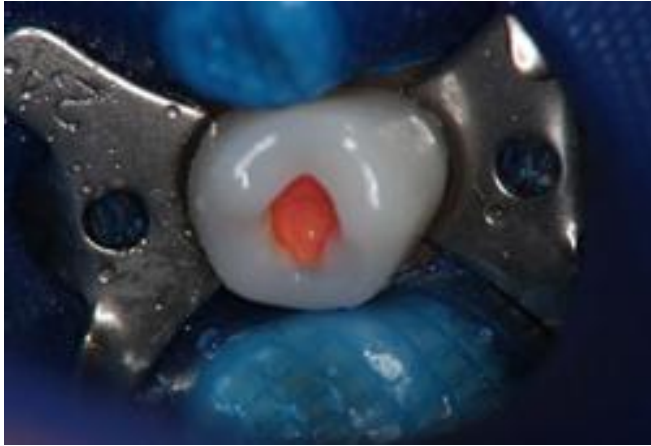
窩洞の消毒

- ・患歯のみを露出
- ・周囲に隙間がない
- ・フレームの向き
- ・口腔内を覆っている
- ・鼻を覆っていない

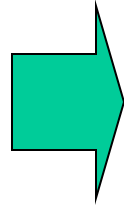
-  ラバーダム防湿へ
-  最初へ



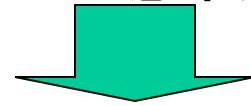
感染象牙質除去



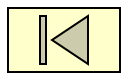
う蝕検知液にて染色



スチールラウンドバーまたはスプーン
エキスカベーターで感染象牙質除去

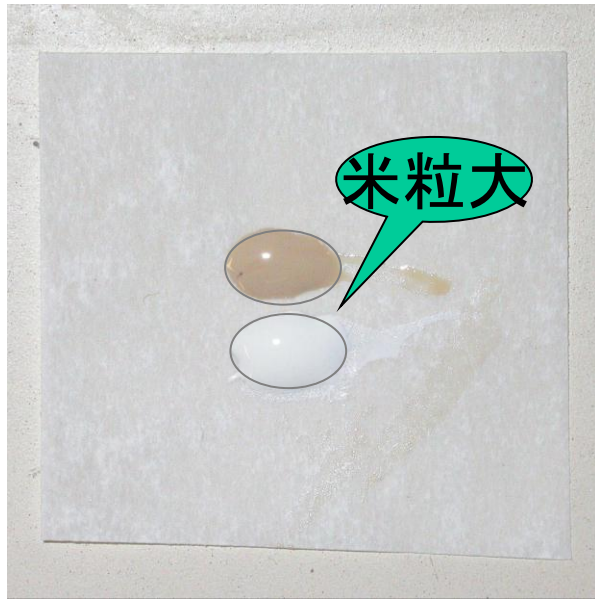


ラバーダム防湿へ

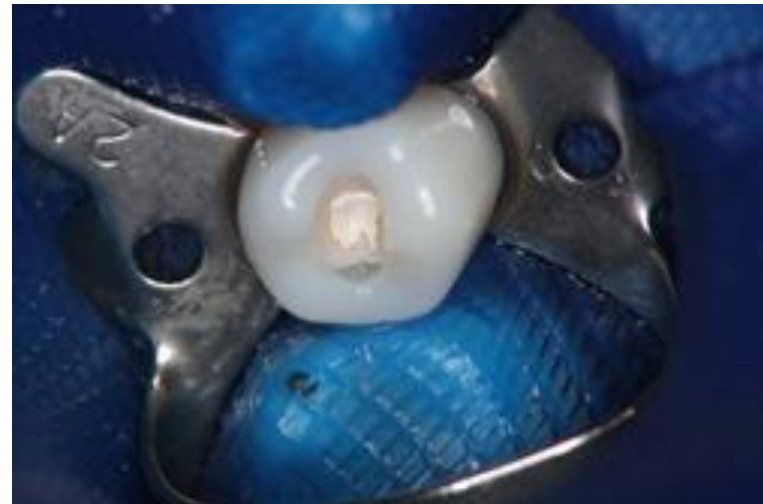


最初へ

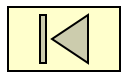
覆髓剤の貼付



水酸化カルシウム製剤 Dycal®

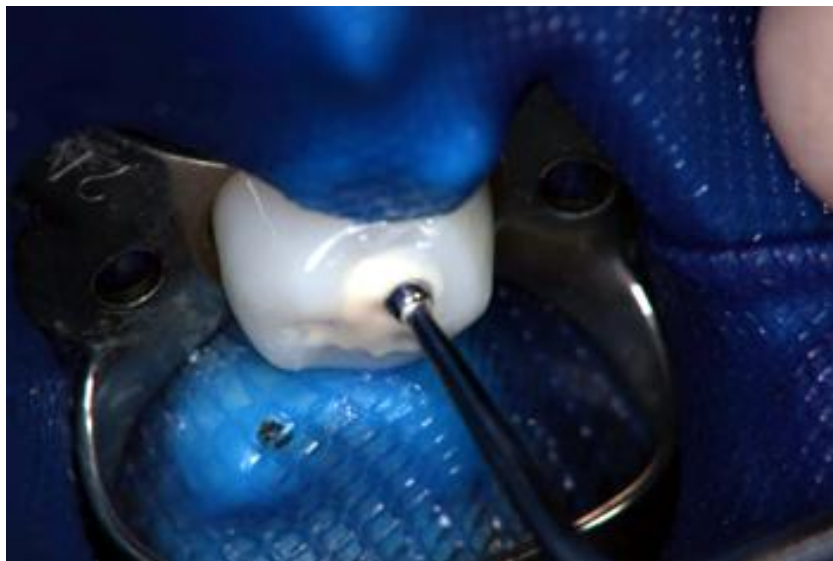


間接覆髓剤の貼付
窩底最深部にのみ貼付する。



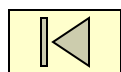
最初へ

仮封



グラスアイオノマーセメントで仮封

ラバーダム除去後
咬合のチェック



最初へ

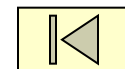
覆髄後の処置

間接覆髄

1週間以上の予後観察を行い、臨床症状などの問題がなければ最終修復を行う。

直接覆髄

1ヶ月以上の予後観察を行い、電気歯髄診で生活反応を確かめ、エックス線検査で修復象牙質の形成状態を確認した上で最終修復を行う。



最初へ